

わかやま国体 選手強化の取り組み

柔道

「これまでの選手強化の成果といわて国体への課題・抱負」

岩手県柔道連盟強化部長 阿部博之



来年度開催される希望郷いわて国体にむけ、当連盟では平成22年より、成年男女は県民体育大会、少年男女は、中学校新人大会の上位入賞者を中心に強化を進めて参りました。

今年度の和歌山国体では、成年女子が初優勝という成績を取ることが出来ました。本県での開催前の優勝は強化の成果と課題が見えるものとなりました。

成果としては、強豪大学への遠征があげられます。全日本の強化選手と一緒に稽古することで地力がついてきました。月に1~2回週末に出かけ、回を重ねるごとに体力・精神面ともに逞しくなってきたように思います。これは、

和歌山国体でのチームワークやコンディショニングの良さにもつながったと考えています。引き受けていただいた大学の先生方には感謝の一言に尽きます。

一方、技術的に不足している部分の強化が課題としてあげられます。自己のレベルアップのためには、指導者だけではなく、選手個々が自分の課題を明確に持ちながら練習に臨む必要があります。その上で、さらに強い選手の胸を借りて刺激を受けることが不可欠なのは言うまでもありません。

今回の優勝を励みに、来年のいわて国体につなげるため、選手と共に精進して参りたいと思います。

剣道

「いわて国体に向けて、選手強化の成果と課題」

いわて国体剣道競技強化委員長 西田裕



本格的強化が緒についてほぼ3年を経過してもなお、成果ゼロを繰り返す日々、強化担当者としては、暗澹たる思いのまま、五里霧中で迎えた東北ブロック予選大会。期待の少年男女が振るわず、4種別そろって国体出場の大目標は叶わずも、成年女子が5戦全勝の完璧な内容で優勝を果たし、意欲を失いかけていた指導者とスタッフ、なにより選手たちに勇気を与える嬉しい結果となりました。

さらに、先般の「わかやま国体」においては、成年男子がこの流れを受け継ぎ、本県史上初となるベスト4進出を達成。しかも、圧倒的に格上である強豪大阪、千葉を撃破しての快挙。大げさですが、剣道界では、ラグビーワールドカップ日本代表が、対南アフリカ戦で納めた歴史的勝利に匹敵する位の大事件、と言っても過言ではありません。

今回、地元開催前年の国体で目に見える成果を残すことができたことは、ひとえに、選手のみならず関係者全員が

「チーム岩手」の団結で一丸となって挑んだ気迫と執念の賜物であると確信します。

国体は通常の大会と異なり、引き分けの無い過酷な戦と言われます。その中で、決勝戦まで勝ち切るためには、さらに高レベルの「心・技・体」が求められます。亀井アドバイザーの言う「素振り一本も疎かにしない徹底した基礎鍛錬から」の意味を胆に銘じ、これまでの強化策を検証しつつ、いかに修正し本番に繋げていくかが課題であると考えます。

優勝の二文字は、開催県としての宿命ではありますが、歴史的に剣道基盤が弱い本県にとっては至難の業です。この第71回いわて国体を、「五十年に一度しかない千載一遇の好機」と捉え、本県剣道界発展のためにも、是が非でも成し遂げなければなりません。泣いても笑ってもあと10ヶ月、今一度気を引き締め、初心に立ち返り精進していく覚悟です。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

クレ
射撃

「今シーズンを終えて」

岩手県クレ射撃協会 村谷 信明



今シーズンの総括として、まず良かった点は10月2日から3日間行われた和歌山国体で、スキート団体3位という結果を残せたことです。目に見える成果は選手の自信に繋がると同時に、自然と高まる周囲からの応援や期待が適度なプレッシャーとなり、高いモチベーションを保つことに繋がります。来年の岩手国体を目前に、良い形でシーズンを終えることができました。

岩手県では冬の間射撃場が閉鎖されてしまうので、基礎体力作りや拳銃（射撃姿勢をとる）が主な練習となっており、実際の標的射撃はできません。そのため、春のシーズン序盤ではとにかく射撃に慣れることを目的に基礎射撃トレーニングを優先して行いました。中盤では練

習量を増やし、実戦に向けた技術練習と苦手箇所の克服に力を入れました。和歌山国体の2ヶ月前からは公式大会に積極的に参加し、実戦を想定した練習とメンタル強化に努めました。特に、実際の国体会場である伊勢原射撃場で行った本番直前の強化練習では、場の雰囲気をつかむことができ、有意義な最終調整となりました。

今後の課題は、冬季のブランクを少しでも減らしてスムーズに次のシーズンへ入っていけるよう、県外の射撃場へ実技練習に行くなどして積極的に練習量を増やし、体幹やメンタルのトレーニングも取り入れて総合的な射撃力の強化に努めることです。そして希望郷いわて国体では、県民の皆様の期待に応えるべくスキート団体優勝を狙います。

カヌー

「いわて国体に向かって」

岩手県カヌー協会 小野 幸一



カヌースプリント競技の国体会場地である岩手県立御所湖広域公園漕艇場は、平成25年8月9日に岩手、秋田を襲った記録的大雨により大きな被害を受け、シーズン半ばで艇庫営業が終了しました。翌年以降の御所湖使用も危ぶまれたなかで、懸命に復旧に尽力された岩手県スポーツ振興事業団艇庫職員の皆様深く感謝申し上げます。

さて、カヌー競技の少年選手は、全員が高校から競技を始めるため、毎年スタート時点で他県のジュニア選手と大きい差があります。それを通常の練習に加え強化事業を有効に活用しながら競技力向上を図ってまいりました。今年度の紀の国わかやま国体においては、選手一人ひとりが自分の役割を果たし、少年の部では女子カヤックペア200m初優勝をはじめ複数種目の入賞という大活躍をみせ

てくれました。成年の部では、スプリント競技の近村健太選手が苦手な200m競技で入賞、ワイルドウォーター競技の山田菜未選手は、この競技において県勢初入賞と大きく飛躍し、強化事業が確実に力になっていると感じております。

来年本番を迎える希望郷いわて国体では、今年度活躍した少年選手が卒業し少年の部において新たな選手での戦いが始まります。そのため確実に一歩ずつ階段を上り、実力を向上させる必要があります。成年の部では、スプリント競技の女子カヤック、男子カナディアン決勝進出とスラローム競技の初入賞をめざし更に強化に励む必要があります。今後も、多くの方々のご理解とご協力をいただくとともに、応援して下さる皆様に感謝しながら目標得点を達成できるよう邁進する所存です。